

氷ノ山体育所建設 50 周年 記念式典のご挨拶

2006年4月より神戸大学山岳会の会長を拝命してはや5年目が過ぎ、6年目となっております。会長就任にあたり次の二つを基本方針に邁進してまいりました。

1.パイオニア精神の継承

- * 台湾、パタゴニアに始まる南米遠征、そしてアラスカからヒマラヤへと発展していった遠征に見られる未知の探求と困難への挑戦
- * 処女峰に登りつくされつつある今日における会としての新たな Vision の提示

2.新時代の登山のありかたの模索

- * 遠征を通じて若い世代を育成
- * 若い世代の積極的な参画による新しい活動スタイルの揺籃

第一の方針に従って崗日嘎布山群遠征を計画し、2009年には Lopchin Feng (6805m)の初登頂成功に結実しております。これも皆様方の絶大なる支援のおかげと、あらためてお礼申し上げます。

もう一つの方針である新時代に向けてのあり方の模索については、現役山岳部の活動を支援することであります。若い世代の育成がなければ伝統の継続はありえません。遠征を通じて育成することは勿論、やはり日頃の登山活動を通じて先輩後輩が語り合っていくことが重要です。

幸い、今日こうして建設 50 周年を迎えて、多数の方々がお集まり頂きましたが、この神戸大学山氷ノ山体育所、「千本杉ヒュッテ」が健在であります。デッキは11年前に武田則明先輩の設計と陣頭指揮により増設されました。

春夏秋冬、このヒュッテをベースに多くの岳人が育ちました。頂点であるヒマラヤの未踏峰の登頂もここからの出発であることは間違いありません。現役諸君にこのヒュッテの利用と維持を引き継いでゆくことが建設当時の先輩諸氏からの願いでもあり、輝かしい神戸大学の学術登山や Field Work の継続に貢献することでもあります。

今日まで風雪に耐えて健在であることは、建設の労を担っていただいた故中村健治氏をはじめご参列の先輩諸氏のご努力は勿論、神戸大学の財産として長らくお世話を頂いている大学の継続のご支援の賜物であります。そのご努力に心から感謝いたしますとともに、これからの50年への第一歩としてヒュッテの継続を願ってやみません。

今日のために修理と整備にご尽力いただいた学生支援課の中満航様をはじめ、現役諸君、ヒュッテ担当理事の土山尚彦様、正垣木材の皆様ほか多くの方々に心よりお礼申し上げます。

2011年10月16日

神戸大学山岳会
会長 井上 達男